

障害のある子ども達への 子育て支援

広げよう 地域活動！

—— 地域活動づくりのための手引書（普及版）

全国特殊学校長会

平成16・17年度 独立行政法人 福祉医療機構助成事業
■子育て支援基金助成事業（一般分）■

地域のみなさんへ

みなさんは、これまで実際に、障害のある人とかかわった経験はありますか？

障害のある子ども達は、生きる力を育むために、養護学校や地域の学校でたくさんのことを勉強します。また、私たちは誰でもみんな、地域で生活し地域社会のいろいろな関係の中で、学校では学べないようなたくさんのことを自然に身につけています。地域の人とかかわりにより、生きる力をつけるチャンスを与えてもらっています。

私たちが地域の中で生きていくには、人と人とのふれあいが必要です。障害のある人や一緒にいる家族にとって、ほんの少しのさりげない気遣いや優しい言葉かけがどれほどありがたく、励みになり、嬉しく心にしみるかわかりません。

障害のある子ども達と付き合っていく中で、みなさん自身もきっと障害のある人たちから学び、幸せをもらうこともあるでしょう。そんな心と心が触れ合う対等な関係「心のネットワーク」を広げていきましょう！

支援関係者・関係機関の方々へ

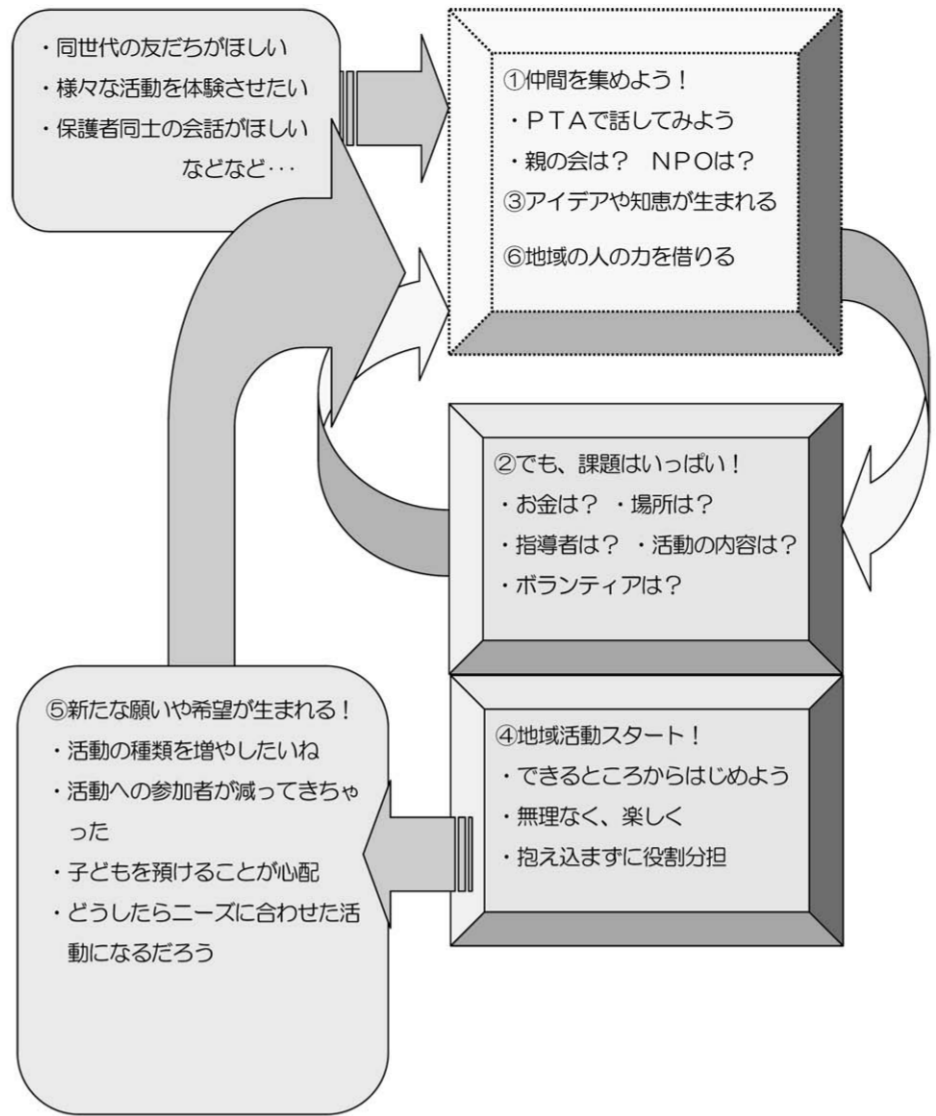
障害のある人が地域で生き、自立して社会参加をしていくためには、多くの支援関係者・関係機関による生涯にわたる一貫した支援が必要です。

子ども達は地域の中で生活し、学校・家庭以外にもさまざまな機関に通ったり、活動に参加したり、またヘルパーさんや個人的にも多くの方の支援を受けながら、地域の人々とかかわりの中で成長していきます。

「個別の教育支援計画」は、地域で生活する一人一人を囲む支援関係者・機関が、的確な支援をするための道標となります。子どもを中心に据え、その子を取り巻く教育、福祉、医療、労働、その他さまざまな機関、そして家庭が共に連携し情報を共有しながら、一人一人の生活を支援し、成長を見守っていくときにこそ、それぞれの専門性、独自性、特徴が発揮されます。

子ども達が自立して、地域で豊かに生きていけるようになるために、これからも関係者・関係機関のみなさんにしっかり支えていただきたいと思います。

広げよう地域活動



関係者全員が活動を楽しむこと

さまざまな異なった経験や個性をもった人たちが一緒に活動（サポートも含めて）できる場が必要だと考えています。大人も子どもも、障害のある人もない人も、当たり前にして自然に楽しい余暇活動を続けていきたいと思っています。障害者、高齢者、国籍等あらゆる枠に縛られることなく、広いフィールドで行う活動を地域から発信していきたいと考えています。

その活動にかかわるすべての人が活動を楽しむことによって、人と人のぬくもりのある関係や、温かく厳しく子ども達を幸せにたくましく育てる家庭等の社会環境をつくっていききたいと考えています。

もっとも大切にしていることは、「楽しんで生きる」ということです。何かを捨てて何かをとるのではなく、その活動を負担に感じるのではなく、自分も含めて人生に付加価値をもたせられるような、「生きがい＝人生を楽しむ」活動にしていけたらいいなと思っています。

保護者対象「支援ツール作成教室」を開催

児童生徒が主体的に活動するために必要な道具や手段を「支援ツール」と名づけ、それを活用した実践を進めています。学校で培った力を生きた力にするために、地域社会でも、効果的な環境づくりを進めたいと考えています。そこで必要になってくるのが、家庭や地域の関係機関との連携です。そして、一貫した支援の媒介となるのが支援ツールの使用です。

以上のことから、支援ツールも家庭と共有するようにしています。さらに、児童生徒の家庭での実際の姿にあった支援ツールの

行政・地域の方・学校との協力をどのようにしていますか？

地域活動を継続・発展させるためには、関係する機関や人との連携が欠かせません。地域行政や地域住民及び学校と、どのように連携しているのか、各地の様子をお聞きました。

【行政との連携】

●市町村の社会教育団体として登録し、学校及び公共施設等の施設利用及び補助金・助成金等の支援を受けやすくする努力をしています。また、現在文部科学省が推進している「子どもの居場所づくり」の「地域子ども教室」等を活用しているところもありました。

【地域の方々との連携】

●障害児・者の理解啓発とボランティアの発掘のため、既にある地域のサークルやボランティア団体とのつながりをもっているところが多くあります。『ボランティア養成講座』を主催し、自ら地域住民の方々との連携を深めているところもあります。

【学校との連携】

●交流校の児童生徒の地域活動への参加、近隣の小・中学校の児童生徒（特殊学級の児童生徒も含みます）の参加、地域の高校生及び大学生のボランティア協力等、各学校との連携を図っているところが多くあります。さらには、盲・聾・養護学校の教師をボランティアとして要請したり、学校の施設・教具等を借りるなど、緊密な連携を図っているところがほとんどです。

このような連携を図りながら地域活動を継続していますが、こうした関係機関や地域のキーパーソンを、実行委員会や運営委員会等のメンバーとして迎え、日頃から連携のパイプを強くしておきたいものです。

作成にも目を向け、平成16年度から保護者を対象とした「支援ツール作成教室」を実施しています。大学教官の『支援ツールとは?』の講義から始まり、実際の作成ではサポートブック・紹介名刺・買い物シート・ウクレレ練習ブック等を教師のアドバイスのもと、作成しています。

「個別の教育支援計画」の策定が進む中で、家庭や地域との連携は今まで以上に重要になってきています。しかし、「協力をお願いします」だけではなく、「これを使ったら効果的です」という具体的な手掛かりを共有することで、より有効な連携が期待でき、家庭や地域で主体的に生活することにつながります。

◇ ◆ ◇ ◆ ◇

障害のあるなしにかかわらず、共に支えあい、共に生きる地域社会の実現は目指す確かな方向です。その実現のために、障害のある子ども達自身、また子ども達にかかわる全ての人たちや関係機関、地域の方々が、目指すものを共有し、相互のつながりを豊かなものにしていくことが必要だと思います。本「手引書」の巻頭には、「子ども達へ」「地域のみなさんへ」「ボランティアさんへ」「支援関係者・関係機関の方々へ」「学校の先生方へ」「保護者のみなさんへ」と、関係する全ての方々に対するメッセージを掲げました。地域で生きる…障害のある子ども達の子育て支援としての地域活動づくりが、目指す社会の実現に向けた一助となれば幸いです。

子育て支援としての地域活動が豊かに展開され、いずれは「支援」という冠をつけなくても安心して活動できる地域社会づくりにつながっていくことを期待して…。